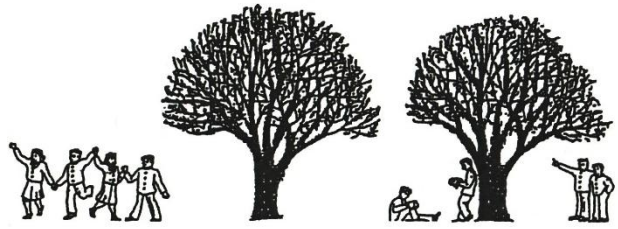


2本のケヤキ

第170号 (令和8年5月12日)



群馬県教育ビジョン

群馬県では、令和6年に5年計画で群馬県教育ビジョン(第4期群馬県教育振興基本計画)を策定しました。今年度はこの計画の3年目にあたります。変化が激しく、将来の予測が困難な現代社会においては、一人一人が主体性を持ち、自ら考え、判断し、責任を持って行動していく必要があります。群馬県教育ビジョンでは、子どもたちのみならず全ての県民を「学習者」と位置づけています。人が誰しも生まれつき持っている、**自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力(エージェンシー)**を発揮し、自らの意思と選択で学びをつくり、実際の行動に移せるようになる教育を目指して、群馬県の教育振興のための基本的な方向性を定めています。

最上位目標には、「**自分とみんなのウェルビーイング**が重なり合い、**高め合う共生社会**へ向けて」～ひとりひとりが**エージェンシー**を発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「**自律した学習者**」の育成～を掲げています。

そして、群馬の教育が目指す「**5つの学習者像**」として以下が挙げられています。

- (1) 自らが主語となる学びをつくり、深めていく
- (2) 社会課題を自分事化して、行動に移す
- (3) 多様性を尊重し、互いに認め合う
- (4) 対話と交流により、信頼関係を築いていく
- (5) 生涯にわたり学び続ける喜びを実感し、共有していく

また、「**非認知能力**」の育成もキーワードの一つです。テスト等で数値化できる認知能力だけでなく、「**自己肯定感、自制心、やり抜く力、回復力、共感性、コミュニケーション能力、協調性、道徳性、思いやり、探究心、意欲、創造性**など」の**非認知能力**を伸ばすことは、エージェンシーを発揮するために不可欠な要素であると考えられます。

5つの学習者像を目指すために

【本校で行うこと】

まず、「自らが主語となる学び」の実践です。作業学習や行事等において、教員が手順を指示するだけでなく、生徒自身が選択・決定する場面を積極的に設定します。ICT機器も単なる道具としてではなく、自らの可能性を広げるための武器として使いこなす力を養っていきます。

また、「対話による信頼構築」です。自立とは全てをひとりでこなすのではなく、必要な時に適切に人に頼れることです。具体的に協力を仰ぐ「リクエスト・スキル」を磨き、生徒同士が助け合う「ピア・サポート」を実践していくことが重要であると考えます。

さらに、「多様性の尊重」です。交流及び共同学習などを通して、地域の方々や他校の生徒と触れ合いながら、お互いに尊重し合える関係性を築いていきます。

【家庭にお願いしたいこと】

まず、「待つ」と「任せる」ことです。身の回りの準備など、たとえ時間がかかっても、本人が決めて動くのをギリギリまでじっと見守ってみてください。大人が「正解」を与えすぎないことが、生徒が自ら考え出す第一歩となります。

また、「小さな失敗」を肯定することです。失敗を叱るのではなく、「どうすれば次はうまくいくかな?」と問いかけ、試行錯誤と一緒に楽しむことを心掛けてみてください。「失敗しても大丈夫」という安心感こそが、挑戦する心を育てます。

学校も家庭も「与えすぎる支援」を卒業し、生徒が悩みながらも自分で道を選び取る姿を信じて見守っていきましょう。学校と家庭が同じ方向を向き、ウェルビーイングを共に支える「一つのチーム」となることで、生徒たちは自信を持って社会へ羽ばたいていけるはずです。